

## 編集後記

『日本研究』第二十号をお届けいたします。

本号には、総合科学研究科在籍中の何資宣、平成十八年度卒業の新中裕子、柳澤めぐみの論文を掲載しました。

なお、本年も引続き本会の会員名簿の作成・補完を続けております。会員の皆様にはご面倒でも、住所変更がございましたら、ぜひ本会へご連絡をお願いいたします。

また、第十九号巻末においてもお知らせいたしました。平成十八年四月に、総合科学研究科が新設されました。新たな体制の中で初心を確認し、歩んでいく必要を感じております。

今後とも日本研究へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。  
(光武)

今回は二十号というきりのよい数字になりましたが、特集号が三号あるので、二十三冊目の「日本研究」で

す。広島大学の図書館のホームページで「日本研究」の各論文をPDFファイルで閲覧・ダウンロードできるようにになりました。関心のある方は、ぜひ学術情報リポジトリ (<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/>) をご覧下さい。

ところで、平成十八年度で楠瀬先生が退職され、また、研究科の講座体制がようやく新しいもので実質的に動き始め、檜原・佐竹・布川先生が、地域研究講座（広域アジア研究分野）、浅野が社会文明研究講座（地域環境論分野）で日常の業務を行うようになるなど、かつての日本研究講座は解体してしまいました。講座紀要としての本誌は、その性格・位置づけを抜本的に改めざるを得ない状況です。これまで名ばかりであった発行主体の「日本研究研究会」を実体のあるものにして、有志の会員からなる研究会にしていく必要もあらうかと思えます。はらはらと、また苛立たしくお思いの方もいらっしゃると思いますが、今後の動きを見守って下さい。応援よろしく申し上げます。  
(浅野)